

## 古平ロードレース大会でのトレーナールーム活動

—2016～2018 年「体育の日」の活動—

小野寺 恒己

東町整骨院

### Trainer room activities at FURUBIRA Road Race Tournament -Activities of "Health Sports Day" from 2016 to 2018-

Tsunemi Onodera

Higashimachi Judo-Therapy Clinic

Key words : Marathon event (マラソン大会) , Trainer room (トレーナールーム)

#### 【活動の背景】

古平ロードレース大会は、「楽しく走り、歩くことに生きがいを感じ、健康と体力の維持並びに日頃の力量を試練する」趣旨で 1975 年から開催される長い歴史を持つ大会であり、著者も中学生の頃に参加した。2015 年に著者の研究課題であった「北海道内マラソン大会におけるアスレチックトレーナーの需要と供給に関する研究」<sup>2)</sup>の調査を同大会実行委員会に依頼した際に、翌年からの参加者へのトレーナー活動を申し出て、許可を得たうえで実施した。

#### 【活動の目的】

市民マラソンランナーが運動器の愁訴等を有しながら大会に参加している<sup>3)</sup>ことから、参加者が少しでも快適に (ベストコンディション) 参加できること、この大会でボディケアを受けられるという大会の特徴と位置づけられることにより町外からの参加者増に伴う経済効果を期待することを目的とした。また古平町出身である著者による「ふるさと納税」の労務提供版としての活動であった。

#### 【トレーナールーム (以下: TR) の運営方法】

初回の 2016 年は、受付・助手として柔道整復師専

門学校生 1 名の協力を得たが、それ以外は著者 1 名で実施した。広報は大会当日に看板および会場での放送案内を行った。利用希望者には受付・記録票に必要な事項を記載させ、問診、触診、整形外科的徒手検査を行い、身体的問題の所在の説明 (インフォームドコンセント) 後に必要な処置を行った。

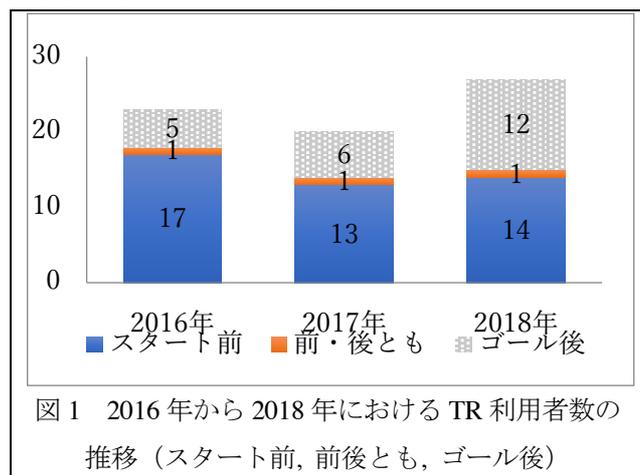
処置をする上で必要な質問は、①皮膚のかぶれ体質の有無、②ランニングを中止するほどの既往歴、③現在の疼痛等の症状の有無と部位であった。整形外科的徒手検査では、主に、形態と機能 (柔軟性)、そして下肢の左右の脚長差 (股関節伸展位と屈曲位) のチェックを行なった。記載した内容は大会終了後に個人情報に配慮し、終了後速やかに主催者に「報告書」を提出し当該活動への理解が得られるように努めた。

#### 【利用者について】

TR 利用者数は、2016 年が 23 名、2017 年が 20 名、2018 年が 27 名であった。2016 年のみ古平町民が 2 名あったが、他は町外からの参加者であった (図 1)。

利用者の主訴と処置部位は、著者らのこれまでの報告同様に<sup>2)</sup>、部位では腰部から下肢、症状では運動痛が圧倒的に多かった。著者の他の活動に比べ目立った

のが利用者の既往歴であった。3年間で14名、ほぼ毎回、利用者の3割程度存在し、その傷病名は、前十字靭帯断裂手術、半月板損傷、腓骨筋腱炎、腰椎分離すべり症手術、肘部管症候群手術、肩関節脱臼骨折手術、左右股関節人工関節置換術、膝蓋骨骨折、脳梗塞があり、大会時の既往症（最近の傷病）では、足関節捻挫（大会1&3週間前）、腰椎剥離骨折（4週間前）、腰椎椎間板損傷が存在した。



#### 【考察】

著者はこれまでに、「原始林クロスカントリー大会」（江別市）および「たかすジョギングフェスティバル」（鷹栖町）のTR新設に関与し、両活動ともに2回目以降の利用者が初回に対し急増することを経験したが、今回は2回目に利用者の減少が見られた。3回目ではスタッフ1名での対応能力に限界があることから処置方法の検討が必要である。

TRの利用は無料であるが、無料であっても利用者（被施術者）とアスレチックトレーナー（柔道整復師）間において、ボディケア（施術）の申込みと承諾が成立した時点で民法第656条の準委任契約が成立し、民法第10節の委任契約と同等に扱われ、第645条の「受任者が負う報告義務」が発生すると考えられる。したがって、カルテ等の作成が必要であり、その記載内容は、委任に基づく施術行為の記録であることから、報告義務および情報開示義務があるとされ、記録の保存は必要であると考えられた。

また、主催者の安全管理の一部を構成する役割であることを考え、特に、大会参加中に発生したケガの応

急処置等の記録は、その後の傷害保険申請などの証拠資料としても重要な意味を持つことから、負傷状況や処置内容の記録は必要である。しかし、多くの利用者に対応するためには、大会参加中のケガ以外の場合は、必要最低限の情報のみ記録することになる。

今後、TR活動を再開していく場合、withコロナ、afterコロナの状況下になることが推察され、感染症対策は最重要な課題として考えなければならない。変異を繰り返すコロナウイルスの情報を的確に捉え、飛沫感染・接触感染等の対策をどのように講じながら活動を進めるかを検討しなければならない。

#### 【おわりに】

これまで3回の活動を実施し、2019年は本学会大会と日程が重複したために中止し、翌年からは新型コロナウイルス感染拡大防止により大会が中止になったが、大会の特徴として参加者に広まりつつあり、再開の際にはTR活動を通じランナーに貢献したい。



写真 2018年、大会本部横のトレーナールーム

#### 【文献】

- 1)第44回古平ロードレース大会要項,  
[http://www.town.furubira.lg.jp/common/img/content/cassette\\_2\\_pdf02\\_20190730\\_092717.pdf](http://www.town.furubira.lg.jp/common/img/content/cassette_2_pdf02_20190730_092717.pdf)（令和3年2月2日閲覧）
- 2)小野寺恒己ら（2019）北海道内マラソン大会におけるアスレチックトレーナーの需要と供給に関する研究, スポーツ整復療法学研究, 20(3):113-120  
(受理 2021年8月27日)